

Vancouver Landfill

Landfill とは、ごみ処理地のことを言います。その Landfill に私たちは見学に行きました。Landfill に到着し、佐藤先生、塩見先生が手続をしに行っていらっしゃる間に現地の Landfill で働いていらっしゃるお兄さんのガイドがスタート。先生方2人を残し、ガイドバスは出発です。

まず、はじめに見せていただいたのがごみの分別場所です。Landfill には市街地のごみがあつめられ、そのごみははじめに分別されます。できるだけおおくのものがリサイクルできるように

分別されます。そのリサイクルされるもののなかでは、例えばマットレスなどがありました。また、アスベストを含むものは人に害を与えるため、穴をほりその穴で処理をおこなっています。



Picture 1 分別場所

Picture 2 メタンガスを抜くパイプ



メタンガスをごみの山から排出することで、ごみの量も減らすことができ、さらに、メタンガスを使用して発電し約 6000 世帯もの電気を供給しています。また、その熱を利用して温室をつくり、植物の栽培をおこなっています。ごみから出るメタンガスを利用して発電することで環境にもよいため、政府はこのメタンガスの発電に重きをおいています。

Landfill で工夫されていることは他にもありました。ごみから流れ出る汚れた液体を流す水路と綺麗な水を流す水路についてです。これらの液体が混ざらないように、2本の水路に段差をつけてながしています。もちろん上の水路を流れる水は綺麗な水で下の水路を流れる水はごみから出る汚れた液体です。今でもこの水路が使われているかどうかはいまいち英語がききとれませんでした。おそらく昔の方法だとおもいます。

という説明を受けていたところで、現地の方が先生方がいらっしゃらないことに気づき、ガイドバスが二人をお迎えに。全員揃ったところで再び Landfill のガイドのはじまりです。

仕切り直して説明して下さったのが、ごみから排出されるメタンガスについてです。ごみの山に丈夫なシートを被せ、筒をさし、メタンガスの出口をつくります。メ

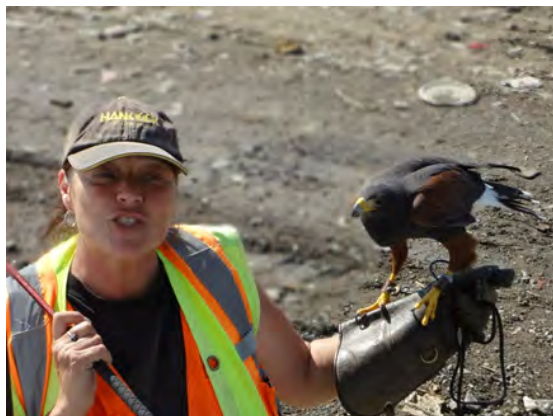
そして水路のお話をききながらガイドバスはどんどん走って大きな丘の上に到着です。丘に到着したガイドバスは一旦停止。私達もバスから降りて景色をみることができました。丘はとても高くカナダの景色が一望できました。この丘こそがごみからできた丘でした。この1つの丘をつくるのに約5年かかります。Landfill といえはごみ処理場なので臭いがひどいと思っていましたが、臭いはそれほどでもなくほとんど気になりませんでした。臭いが気になるというよりも大きなごみの丘の上から見る景色のほうが素晴らしかったです。このごみの丘をこれからどんどんつくり、それぞれの丘を繋げ、今後サッカー場や公園を丘の上につくることが計画されています。

ここで1つの疑問が。「どうしてこの場所がごみの埋め立て地に選ばれたのか。」ということです。その答えにはこのランドの地質が関係していました。見学した埋め立て地に選ばれた場所の地下には粘土の層があります。普通埋め立て地にする際、その土地を掘り、ごみから出る液体が地下に流れ込んだりしないようにするためにゴムをひき、その上

にごみを埋め立てていきます。しかし、今回見学させていただいた Landfill の地下には粘土の層があるため、その粘土の層がゴムの代わりにしてくれます。そのことで、ゴムをしく作業を省くことができるため、この土地が選ばれました。



Picture 3 ごみの山の上から



Picture 4 Landfill で飼っている鷹

再びガイドバスに乗り、次の目的地へむかいます。そこにはごみの山を埋め尽くすほどの大量の渡り鳥がいました。渡り鳥が餌などにひきつけられて、このごみの山に飛んできて居座っているのです。あまりにも多い渡り鳥はしばしばごみ処理車などに巻き込まれ、Landfill の職員を悩ませています。そこで、渡り鳥を巻き込まないように Landfill では鷹

を飼い慣らし、渡り鳥を追い払うようにしつけをしています。その様子を実際にみせてい

ただきました。鷹が渡り鳥を追い払う様子は映画でみるような光景で迫力があり、かっこよかったです。このようにカナダのごみ埋め立て地には様々な工夫と環境を考慮した方法がありました。Landfill に実際に足を運んで見て感じることも大変素晴らしい経験になり良かったとおもいます。